

影するとなれば、松浦と五島列島にはぜひ撮影に行かなければなるまい。永井隆も紙芝居を持って五島に渡っている。五島のカトリック教会の前にはたすむと体も心も引き締まる。開拓移民として離島へ渡ったキリシタンは、厳しい自然条件や貧しい

この名物である。大村寿司も大村で食うとうまい。五島には六角井戸がある。倭寇の頭目だった五峰王直が、いっぺんに多くの人が井戸水をくめるようにと井戸を六角にした

ある王直は、自分にその名をつけたのである。松浦党とも交流があったらしい。五峰が五島に「大川橋蔵主演の東映映画『海賊八幡船』は倭寇を描いた映画である」とテレビのニュースで知って、わざわざ佐世保まで見て

五島や平戸にはおらん。なにせ江戸は大川(隅田川)橋の男である。五峰王直は若き日の丹波哲郎にならされたかもしれない。その時、わたしは一瞬の恋をした。どこからの転校生であった。長い髪を垂らし、前髪を奇麗に切りそろえていた。セルロイドの西洋人形風の目鼻立ち、背の高い美少女であった。その美少女が無口ではにかむようにほほ笑むと、男の生徒は沈黙してうつむいた。「ここはトロクしゃあ」。学校に慣れた頃、美少女がつぶやいた。意味はわからなかったが、なんとなく蕩けるような感じの美少女には不釣り合いの言葉であった。

五島と倭寇と王直

生活に苦しめられた。その伝統はいわゆる「かくれキリシタン」によって、いまも大切に守られている。

目であった。王直の縄張りには広い。五峰とは韓国の日月五峰図からきている。倭寇の大親分では品がよ過ぎた。「こげん男は

行ったが、単なる海洋ドラマであった。大川橋蔵も海賊にしては品がよ過ぎた。「こげん男は

美少女がつぶやいた。意味はわからなかったが、なんとなく蕩けるような感じの美少女には不釣り合いの言葉であった。

もし、映画「長崎の鐘」を撮



おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「丑也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)